

「赤ちゃん体験学習」に拒否的な生徒の検討

(分担研究：乳幼児期からの情緒の形成に関する研究)

田中義人* 小林正夫** 石川清美***

要約

広島県賀茂郡河内町で中学3年生男女を対象に行ってきた「赤ちゃん体験学習」の5年間の成果のなかから、この事業に拒否的な生徒についての検討を行った。生徒290名中265名(91.4%)にポジティブな効果がみられたが、残りの25名(8.6%)は体験後も赤ちゃんに対するネガティブなイメージを残していた。今後、「赤ちゃん体験学習」をさらに効果的に施行していく上で、このグループ(NN群, PN群)をどのように扱っていけばよいか大きな課題とされる。

見出し語

思春期, 赤ちゃん体験学習, イメージ

■ 研究目的

親子のメンタルケアを考える上で、日常での生命とのふれあい体験は、思いやりや優しさを育むために大切である。しかし、現在の子どもたちは、常に同年齢のグループ(学校など)に組織されており、家庭をのぞけば、ことなる年齢層の子どもとのふれあいはほとんどない。このような状況の中で、乳幼児にふれたことのない中学生・高校生が増加している。赤ちゃんに全くふれたことがないまま結婚し、親となる人も少なくない。このことが将来の親子関係にどのような影響を及ぼすのかを考える必要がある。

広島県賀茂郡河内町では、平成4年度より厚生省の思春期事業の一環として、「中学生の赤ちゃんふれあい体験学習」を実施してきた。この事業は、豊かな人間性の涵養と母性父性の育成を目的とし、乳幼児・母親とのふれあいを通して男女の性・生命の大切さを知り、思いやりの心を育み、感性の豊か

な人間育成の一助とするために行われている。乳幼児に触れる機会が極端に減少してきている現在、このような体験学習を意図的に企画し、推進していくことには、かなりの意義がある。特に、大人でもあり子どもでもある中学生の時期に行われた「赤ちゃん体験学習」は生徒に相当のインパクトを与えている1) 2)。

さらに効果的な体験学習の実施方法を模索するために、今回、河内町における5年間の「赤ちゃん体験学習」の成果をまとめ、問題点を整理した。

■ 研究方法

広島県賀茂郡河内町河内中学校の3年生男女を対象に、毎年河内町が実施している乳児育児相談、乳児健診の場に約20名ずつを1グループとして参加させ、着衣の着脱、おむつ交換、授乳、お守りなどを行なわせた。これは1時間余りの母子とのふれあい体験である。

*広島大学医学部保健学科 **広島大学医学部小児科学教室 ***広島県立保健福祉短大看護学科

平成4年度から行っているアンケート調査に加え、平成5年度からは体験前のオリエンテーション時と体験直後の2回、「赤ちゃんについて」という題で感想文を書かせ、その内容を検討した。前後の感想文がそろっている290名(平成5年度の73名、平成6年度の82名、平成7年度の76名、平成8年度の5名)を対象に、体験前後の感想文の文字数の変化、赤ちゃんを形容する語句の変化を検討した。生徒が赤ちゃんを形容している語句を検討し、「かわいい、たのしい、うれしい、あたたかい、すき」などのポジティブな語句、「うるさい、うっとうしい、いや、わがまま、めいわく、めんどうだ、きらい、ふれたくない」などのネガティブな語句、「ちいさい、よわい、歩けない、しゃべれない、よくねる」などのニュートラルな語句に分類した。

体験前の感想文にポジティブな語句が1つでも含まれているものをP群とし、ポジティブな語句が全く含まれていないものをN群とした。さらに、体験後の感想文も同様に分類し、前後ともP群であったものをPP群、体験前がN群で体験後にP群に変化したものをNP群、前後ともにN群で変化しなかったものをNN群、前がP群で後がN群となったものをPN群とした。

平成6年度からは、さらに詳しく「体験学習」が生徒に与えたインパクト度を推測するために、生徒の感想文そのものをスキャナー(EPSON GT-9000)でコンピューターにPict.として取り込み、Adobe Photoshop 3.0Jで処理した。取り込みは256階調グレー、解像度100dpiで、倍率100%とした。これをもとに、文字の大きさ、勢い、筆圧(字の濃さ)、文字数の変化を分析した。その総合的な指標として、取り込んだ画像のメモリー数(Kバイト数)を用いた。

また、平成7年度より体験前後に「赤ちゃんのいる家族」を想像してHBの黒鉛筆で絵を描いてもらい、分析した。

統計処理には、The Cross v.2.0(構造計画研究所)、StatView 4.5J(Abacus Concepts, Inc.)を用いた。

■ 結果

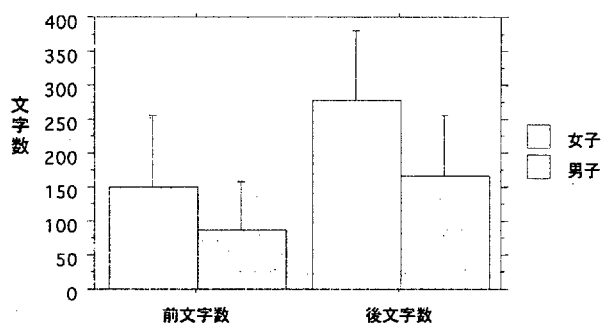
1. 感想文の文字数の変化

体験前に比し体験後には有意に文字数が増加し

ていた。290名全体では、体験前文字数が115.4±94.8字で、体験後文字数が218.8±110.3字であった($p < 0.0001$)。

男女別に検討(図1)すると、体験前文字数は、

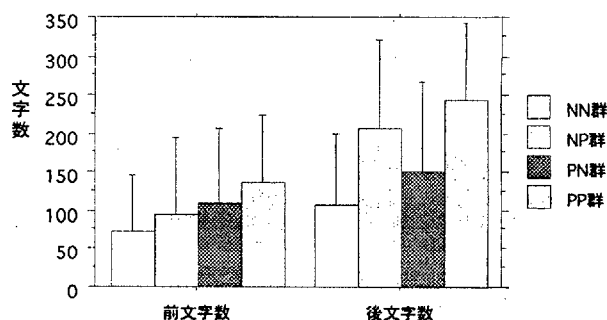
図1: 体験前後の文字数の比較(男女別)



男子(n=156)は85.8±72.8字で、女子(n=134)は149.8±105.5字で、女子の方が文字数が多かった($p < 0.0001$)。体験後の文字数は、男子が167.3±89.4字で、女子が278.7±102.0字で、これも男女に有意差を認めた($p < 0.0001$)。体験前後の文字数の変化は、男女ともに体験後に文字数が増加しており、その増加率は男子が3.6±4.4倍、女子が3.9±8.5倍で、男女間に増加率の差はみられなかった。

群別に検討(図2)すると、体験前の文字数は、

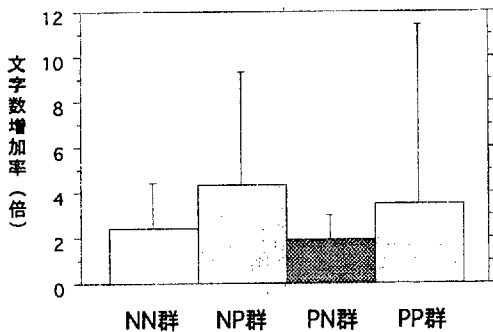
図2: 体験前後の文字数の比較(群別)



PP群(n=156)では135.8±88.7字、PN群(n=6)が109.2±96.9字、NP群(n=109)が93.9±99.9字、NN群(n=19)が72.1±75.0字で、NP群の文字数がPP群に比し有意に少なかった($p < 0.001$)。体験後の文字数は、PP群(n=156)では243.9±98.3字、PN群(n=6)が150.8±116.7字、

NP群 (n=109) が206.0 ± 114.4字、NN群 (n=19) が107.1 ± 93.4字で、群間に有意の差はなかった。体験後の文字数の増加率は、PP群 (n=156) では3.5 ± 7.9倍、PN群 (n=6) が1.9 ± 1.1倍、NP群 (n=109) が4.3 ± 5.0倍、NN群 (n=19) が2.4 ± 1.9倍で、群間に有意の差はなかった (図3)。

図3：体験後の文字数の増加率 (群別)



2. 感想文のKバイト数の変化

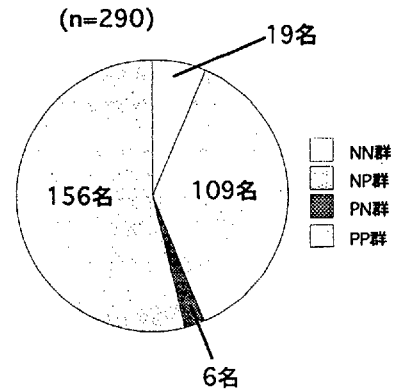
体験前に比し体験後には有意にKバイト数が増加していた。Kバイト数の測定できた236名全体では、体験前Kバイト数が57.0 ± 49.8で、体験後Kバイト数が98.3 ± 84.7であった (p < 0.0001)。男女別、群別の傾向もほぼ文字数の変化と同様であった (詳細は省略する)。

3) NN群、NP群、PN群、PP群の比率 (表1、図4、5、6)

生徒全員 (n=290) では、NN群が19名 (6.6%)、

NP群が109名 (37.6%)、PN群が6名 (2.1%)、PP群が156名 (53.8%) であった。女子 (n=134) では、NN群が2名 (1.5%)、NP群が31名 (23.1%)、

図4：群別グラフ (生徒全員)



PN群が3名 (2.2%)、PP群が98名 (73.1%) であった。男子 (n=156) では、NN群が17名 (10.9%)、NP群が78名 (50.0%)、PN群が3名 (1.9%)、PP群が58名 (37.2%) であった。

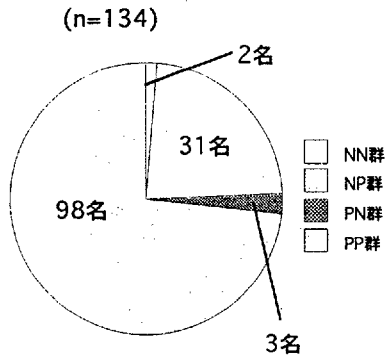
■ 考察

生徒全体 (n=290) でみると、「赤ちゃん体験学習」は265名 (91.4%) (PP群156名+NP群109名) に、よい効果を及ぼし、赤ちゃんのイメージがよりポジティブなものになっている。体験后感想文の文字数の増加率から推測すると、体験学習が中学生に与えたインパクトは相当のものがあったと思われる。PP群、NP群の265名に関しては、

表1：群別表 (年度別、性別)

		平成5年度	平成6年度	平成7年度	平成8年度	合計
生徒全員		73名	82名	76名	59名	290名
女子生徒	PP群	23	29	31	15	98
	NP群	36	36	36	26	134
	NN群	1	0	0	1	2
	PN群	0	2	0	1	3
男子生徒	PP群	13	14	11	20	58
	NP群	37	46	40	33	156
	NN群	1	4	7	5	17
	PN群	0	1	0	2	3

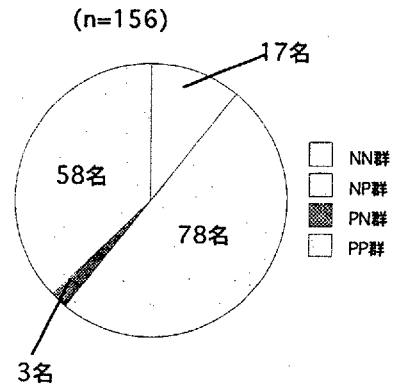
図5：群別グラフ（女子）



感想文から判断する限りでは、全員が「赤ちゃん体験学習」をしてよかった、と思っている。

女子生徒134名の検討では、体験前の感想文で赤ちゃんにポジティブなイメージを抱いていた生徒が101名（75.3%）、ネガティブなイメージを抱いていた、あるいはポジティブなイメージがみられなかった生徒が33名（24.6%）であった。体験後には女子生徒の96.2%にポジティブなイメージの増強、あるいはネガティブイメージのポジティブイメージへの修正がみられ、「体験してよかった」「もう一度やりたい」「もっとふれあっていた

図6：群別グラフ（男子）



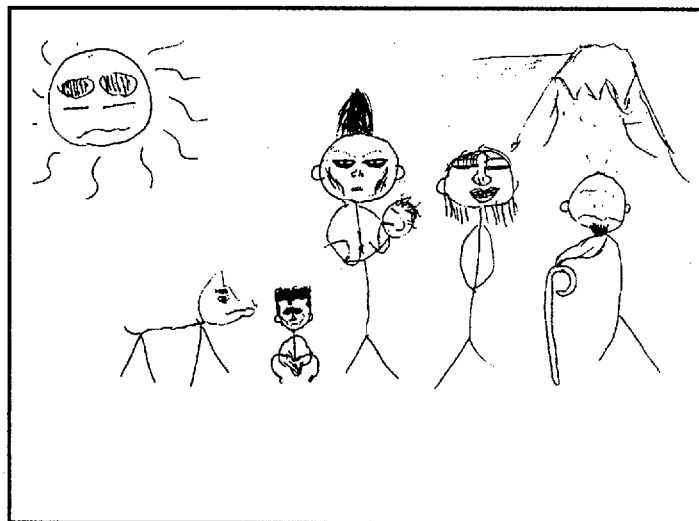
かった」という感想が多くみられた。しかし、ほんの少数ではあるが、ネガティブなイメージが持続した生徒が2名（1.5%）、体験後にむしろネガティブなイメージが増強した生徒が3名（2.2%）みられた。

男子生徒156名に関しては、体験前は、赤ちゃんにネガティブイメージを抱いている生徒が95名（60.9%）と多く、女子生徒の多くが体験前からポジティブイメージを抱いているのと対照的であった。しかし、そのうちの78名（82.1%）は体験後にポジティブイメージに変化し、「最初は嫌だった

図7：H.A.（男子）（NN群）

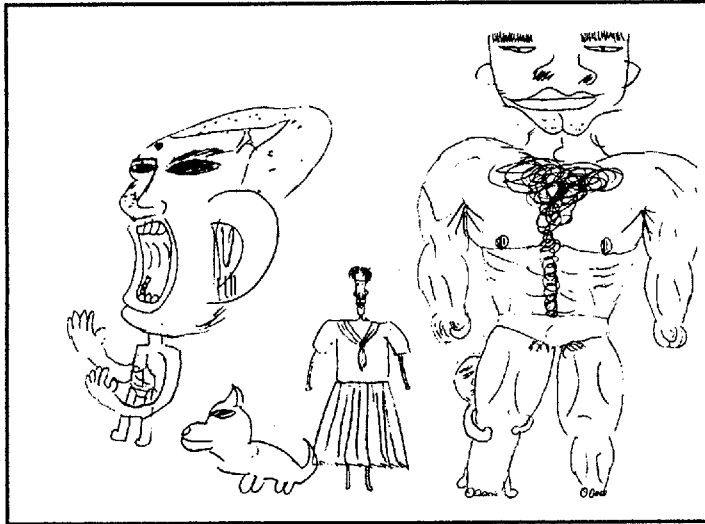
体験前（縮尺：50/100）

赤ちゃんは可愛くなくて、うんちが臭い



体験後（縮尺：50/100）

赤ちゃん体験はいい迷惑だったと思う。泣いてばかりでなにか泣いりたまと思っ



けど来てよかった」「おもしろかった」「ありがとう」「かわいかった」「だっこしてよかった」「もっとやりたかった」という感想が多くみられた。男子生徒の17名（10.9%）がNN群であり、体験後も赤ちゃんにネガティブなイメージを持ち続けていた。この中には体験学習に対して批判的な「いい迷惑だった」「なにがうれしいんだ」という表現もみられた。一例としてH.A.（男子）の体験前後の感想文と描画を図7に示す。これは、赤ちゃんそのものに否定的なのか、赤ちゃんに限らず人とのふれあいが不得手なのか、学校への反発なのか、理由は不明である。また「抱くときとても緊張した」「どうしていいか分からなくてとまどった」「泣かれたので楽しくなかった」という、初めての状況に対する不安、戸惑いの表現も多くみられたことから、保健婦や教師の、乳幼児・母親・中学生の三者への関わり方が体験後の感想に影響を与えている可能性が推測される。

このような、とまどいや失敗感、自信喪失の表現は、PN群の6名にもみられた。その一例としてA.U.（女子）の体験前後の感想文と描画を図8に示す。

PN群の6名（男子3名、女子3名）は体験前の

赤ちゃんに対するポジティブイメージがネガティブなものに変わったというよりも、自分がうまく赤ちゃんを扱えなかったことに対する自責の念が強いように感じられる。彼らに対しては、もう一度、赤ちゃんにふれあう機会を与えて、自信を回復できるようなスケジュールが望まれる。

中学生の「赤ちゃん体験学習」は殆どの生徒により効果を及ぼしている。しかし、ほんの少数ではあるが、NN群、NP群に属する生徒がいる。彼らをどのように指導していけばよいのかが今後の大きな課題である。

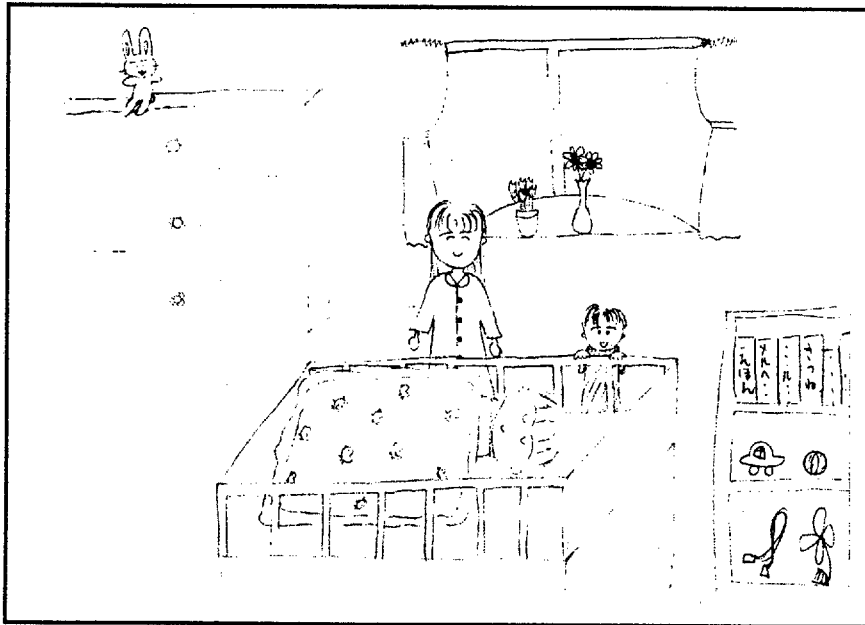
■ 文 献

- 1) 田中義人：「赤ちゃんふれあい体験学習」の中学生に与えたインパクト度の検討。厚生省心身障害研究。望まない妊娠等の防止に関する研究。平成6年度研究報告。平成7年3月。pp.295-303.
- 2) 田中義人、石川清美：「赤ちゃんのイメージ」に及ぼした影響の検討。厚生省心身障害研究。望まない妊娠等の防止に関する研究。平成7年度研究報告。平成8年3月。pp.385-390.

図8：A.U.（女子）（PN群）

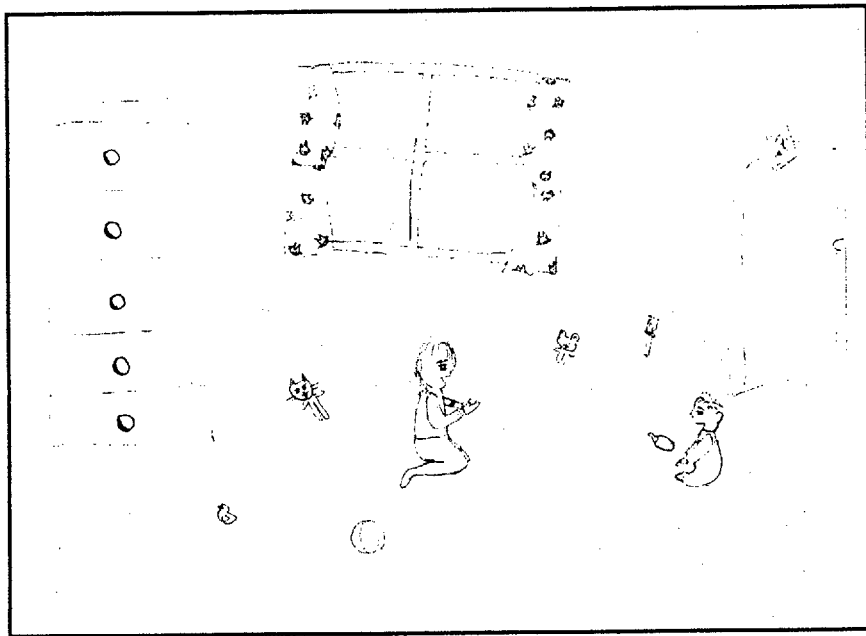
体験前（縮尺：60/100）

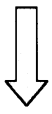
.....生まれ1年と半年たつた子が私の家の隣りに住んでいます.....
.....でもその子を見たことはありませんが、と前まで隣りからよく赤.....
.....ちゃんのおき声が聞こえていました。窓から外まで聞こえるくらい.....
.....だから、もう少し大きい声で泣いているのか、痛くないのかなと.....
.....思いました.....
.....後、薬局に行った時、赤ちゃんの離乳食を見つけたとき、すごく.....
.....おいしそうで、食べたくなりました。赤ちゃんにとってそれは私が.....
.....飛んでいたようにおいしいのかなと思いました.....
.....私の赤ちゃんのイメージは、すごく小さくても重い感じにして.....
.....ふわふわとしていつも笑顔のいう感じです.....
.....本当はどんな感じなのかわからないけど楽しみです.....



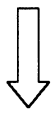
体験後（縮尺：60/100）

赤ちゃんとのふれあひ体験の日、今日はどんな感じだったか、
まあかんばろうと思いつながら、その場所へ入ってみると、
赤ちゃんが「いっばい」って近づいて来てくれた。
赤ちゃんの前にいて、その赤ちゃんのお母さんに赤ちゃんを
抱かせてもらおうとすると、赤ちゃんが泣きやうな顔を
するので、お母さんが一生懸命あやして抱っこさせてくれ
ようとするんだけど、一度も抱っこしてませんでした。その時
赤ちゃんも思っていたよりずっと、難かしいんだなと感
じました。
次の赤ちゃんは、なんとか抱っこできたけど、ちょっと、たつと
泣いてしまいました。
赤ちゃんは、しゃべらないので何を思っているかわからず、
ほいほい全然分からなくて、ボールで遊ぶと、
ボールをもって来て、いつか思ってたように泣こうとするし、
赤ちゃんは何を考えているのかわからなかった。





検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用 論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要 約

広島県賀茂郡河内町で中学 3 年生男女を対象に行ってきた「赤ちゃん体験学習」の 5 年間の成果のなかから、この事業に拒否的な生徒についての検討を行った。生徒 290 名中 265 名(91.4%)にポジティブな効果がみられたが、残りの 25 名(8.6%)は体験後も赤ちゃんに対するネガティブなイメージを残していた。今後、「赤ちゃん体験学習」をさらに効果的に施行していく上で、このグループ(NN 群, PN 群)をどのように扱っていけばよいのかが大きな課題とされる。